

インターバンクの声（2016年7月8日）

英国民投票で欧州連合（EU）離脱派が勝利してから早2週間が過ぎた。国民投票当日の英ポンドは、それまで1.49ドル近辺で取引されていた水準から、投票結果の行方が判明し始めた後、1.35ドル前後まで急落した（一時的には1.32ドルまで下落）。当日は、さすがに下落幅が大き過ぎると思われていたが、急落当日の1.39ドル台後半までの反発を除けば、結局は1.35ドル台が上値抵抗線になっている。さらに7月に入って再び下げ足が早まり、今週中盤には1.28ドル台も見ている。対ドルでパリティ（1ポンド＝1ドル）までの予想は過激だが、1.20～1.15ドル程度までの下落予想は決して少数派ではない。英国が実際にEUから離脱するのは随分先になりそうだが、スペイン総選挙は波乱なく終わったものの、イタリアの世論調査では反体制派政党「五つ星運動」の支持率が上昇しているらしい。まずは今晚の米雇用統計の結果に注目だが、就業者数の増加が前月同様に低調となれば、再びユーロ圏の政局動向も相場に大きく影響することになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。